

## 事業番号2：地球規模生物多様性モニタリング推進事業

### 評価者のコメント（コメントシートに記載されたコメント）

---

#### 【事業の課題・問題点等】

##### 《本事業で設定したアウトカムについて》

- 本事業の目的を考えると、レビューシートの唯一のアウトカムがページビュー件数だが、これ以上のアウトカムを設定すべき。
- アウトカムとして何が良いのか検討すべき。
- イニシアティブに参加している各国・機関の参加国数ではなく、成果目標を見直すべき。
- データ活用成果のフォローアップが必要。
- ページビューはアウトカム目標としてふさわしくない。国際協力についてもアウトカム指標が必要。
- 成果を評価できる論文引用数や地方公共団体のデータ利用数などをもっと明確化すべき。

##### 《事業が継続できる仕組みなどについて》

- かなりの経費削減がなされているので、これ以上の経費削減は難しいのではないか。
- 限られた予算の範囲内で日本の自然環境の変貌について緻密なデータを収集・蓄積されているモニタリングサイト1000を個人的には高く評価する。
- 成果は行政計画や各種施策に利用されているが、国民がわかりやすい成果発信が必要
- モニタリング1000において、日本全体を網羅しているわけではないため、いかに漏れのない調査体制を整えるのが課題である。

##### 《一者応札について》

- 一者応札になっている。
- 自然環境研究センターのウェイトが6割以上と高い。連結してみないと全体像がわからない。一者応札が多いので、競争入札ではなく、他の方法を考えるべきではないか。

#### 【改善の手法や事業見直しの方向性】

##### 《本事業で設定したアウトカムについて》

- 学会や書籍や論文への引用、マスコミによる紹介といったデータを収集し、レビューシートのアウトカムに記載する必要がある。これらのデータを取得する工夫も重要。

- ESABII の研修に関しては、研修後に自国で講師を行ったかどうかはアウトカムになるが、前年の事業が何年後に効果をもつのか、時間軸でアウトカムを把握する必要がある。そうでなければ、本事業の改善が可能なアウトカムにならないので、工夫が必要である。
- データの活用例を収集するため、本データの活用の際に、「登録」（氏名・所属・連絡先のメール等）をさせ、HP 上で、「本サイトの情報を、学術論文や記事の執筆に利用された方、また、地方自治体等の施策や事業の基礎情報として活用された方は、当該センターまでご連絡ください、さしつかえなければ、許諾を受けた上で、その内容について当センターの HP 上で紹介させて頂きます」等とすれば、フォローアップする手助けになるのではないか。
- 各国・機関の取組状況が把握できる成果目標に見直すべき。

#### 《事業が継続できる仕組みなどについて》

- 本事業のデータを活用した事例の PR も重要である。自治体や企業の活用例をもとめ、まだ使ったことのない自治体に情報提供していくこともできるのではないか。
- 原価低減の余地は大きくないので、生物多様性のコンテンツを利用した収益確保の方途を考えるのが現実的ではないか。
- 収益・費用の対応を図る意味では、法人化も検討の価値がある。
- データの有料化、環境アセスメント会社からの Fee の取得などを考えてみてはどうか。
- 当該センターの HP の情報は非常に貴重であり、国際的に見ても有益な情報源であるため、英語の HP の作成をされることを強く勧める。
- モニタリングサイト 1000 については、自然科学系の学問分野のみならず、環境経済学・環境社会学・健康経済学・健康社会学・社会疫学等の社会科学系の学問分野でも活用可能な大変貴重な情報源であるため、外部研究者等とプロジェクトチームを組んで、別途、科研費等競争的資金にアプライし、学術的貢献を蓄積することも強くお勧めする。
- COP10 の目標である生物多様性の主流化を図るためにも、国民にわかりやすいようなデータ・成果の発信を検討することも必要。
- 漏れのない調査体制を整えるという課題の解決に向けて、地方公共団体が主体的に実態把握をしていけるような人材育成とノウハウの提供が重要となる。長期的には、地方公共団体による調査結果を環境省が取りまとめて、協働で対応策について検討するといったスキームも考えられるのではないか。
- 調査データを幅広く利用されるように努力を続けてほしい。国民へ生物多様性の重要性をもっとアピールするべき。長期的観測が必要であり、その際の国・地方の役割分担・予算分担・調査人材の確保について考えるべき。

## 評価結果

---

### 事業内容の一部改善

(事業内容の一部改善：6人)

### とりまとめコメント

---

- ・現状のアウトカムはページビュー件数、参加国・機関数だが、アウトカム目標としてふさわしくない。
- ・本事業で得られた貴重なデータが、どのように活用されているか把握・PRできるようなアウトカムや各国・機関の取組状況が把握できるようなアウトカムの設定が必要。
- ・人材の確保も含め事業が将来的に継続できる仕組みについて、生物多様性センターだけではなく国全体で検討が必要。